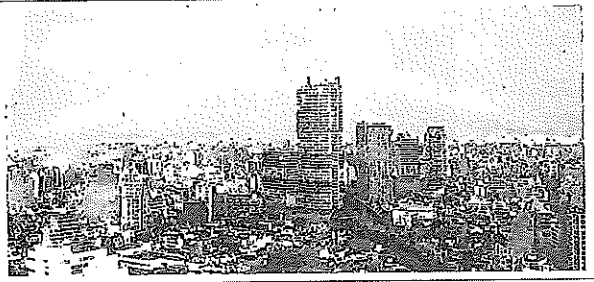
俺がやらねば

秋田町新潮流　平沢勝栄

「即位礼正殿の儀」で突然の虹

44年前にも同じことが…

天皇陛下のご即位を祝う「即位礼正殿の儀」が先月22日、皇居で行われ、私も参列させていただいた。式典には皇室の長い歴史と伝統、そして文化が色濃く漂っており、誰もが日本、そして皇室に強い誇りと喜びを感じたのでないか。



「即位の礼」に合わせたように、東京の空に虹が浮かんだ（東京スカイツリー公式ツイッターから）

ところで、その日は終日、雨模様だった。しかし、式典が始まる午後1時過ぎに急に晴れてきて、空には虹がくっきりと浮かび上がった。

突然の日差しに私の隣の外交団席からは、驚きのどよめきが起こった。

同じことが1975年にもあった。この年、昭和天皇は戦後初めて訪米されたのだが、私もこのご訪問に随行員として同行した。歓迎式典はどんよりとした曇り空のもと、ホワイトハウスの南庭で行われた。しかし、天皇陛下のご挨拶が終了した直後に突然、空からまぶしい輝きが差してきた。その場に詰めかけていた日米両国民約7000人からは、一斉に驚きの声が上がった。このことを当時のマスコミは次のように報じている。

「天皇のご挨拶が終わった途端、雲のすき間から、サッと明るい日差しが一面に飛び込んできた。思わず、群衆の間から『オー』と歓声が上がった。実況中継したABCテレビは『さすがは天皇。お日様を呼び戻すとは』と放送していた」（1975年10月3日付読売新聞）。

こうした突然の日差しは偶然、起こったことだろうか。それとも、何か人知では計り知れない力が働いたのだろうか。

自民は謙虚さを失っている

ところで、最近の週刊誌は、政治家の「政治とカネ」などの問題、とりわけ公職選挙法違反問題の追及に余念がない。

公選法には実情にそぐわない規定があることは事実だ。こうした規定は与野党で協議して早く改めていくことが必要だろう。

しかし、公選法は国会で制定された法律であり、改正されるまでは守り続けることは当然である。

公選法違反続き

かつて、女優の栗原小巻さんは自民党大会で「俳優と政治家に共通する3点」について話した。どちらも常に批判にさらされること、どちらも適切な言葉を適切な時に適切な感情で言うことが大切なこと、そして、どちらも自信と謙虚さを持つ必要があることの3点だった。

最近の自民党は選挙に勝ち続けた結果、おごりや慢心が出て謙虚さを失っているのでないか。ここで私たちは栗原さんの言葉を拳拳服膺し、厳しく襟を正していくことが必要だろう。

（自民党衆院議員）